

潤 うるおい
2008年
1月1日発行

No.
31



(財)潤和リハビリテーション振興財団

潤和会記念病院

病院長 呉屋 朝和

〒880-2112 宮崎市大字小松1119番地

TEL0985-47-5555 FAX0985-47-8558

<http://www.junwakai.com>

「天網恢恢、疎にして漏らさず」

理事長 大野 和 男



あけましておめでとうございます。

2008年の始まりです。まずは昨年感じたことから始めたいと思います。

私は昨年、といっても2006年ですが、12月8日に当院整形外科に於いて、甲斐先生の執刀により左股関節の人工骨頭置換術という手術を受けました。8月の猛暑日、日中に汗だくで庭の植木を伐採し、夕方には美味しいビールをグッと飲む、ということを数日続けたのがたたったのか、その月の末、子供を連れて上高地に行き、明神岳の横を歩いたのが悪かったのか、とにかく歩いている時に「痛い」と感じたのが始まりでした。

それから3ヶ月経ち、だんだん痛みが強くなってきました。皆さんご存知の通り、私は整形外科の医者であります。ひょっとするとあの疾患ではないかな—という思いはありました。そう思いながらも何となくその思いを避けていましたが、ついに放射線科の鈴木先生につかまり、運命のMRI検査。そして見事に確定診断されました。

早速、九州大学整形外科に甲斐先生が画像とともに相談したところ、骨切り術は適応しないとのこと。もう老人なので、人工骨頭にしろとのお達しでした。ちなみに私はよわい、還暦！この「老人」という言葉には腹が立つし、整形外科医として、これまでかなりの人を手術してきましたが、いざ自分が手術を受けるとなると、本音は恐ろしくてたまりません。とは言え、私は男であり、外科医であり、おまけに理事長という立場となると、弱気なところを家の中でも外でも出す事ができず、ただひたすら「それが

どうした」という平気な顔をしていました。

頭の中では知覧特攻隊基地歴史館でみた「散る桜、残る桜も散る桜」という句を思い出して、少々大袈裟な心境にもなりました。それがばれたのか、90歳をむかえた我が母上より「何をくよくよしてんのよー。早くやっちゃいなさい！」とけしかけられ、家内より「貴方もたいしたこと無いわね」という、言葉の暴力とも言えるようなことを言われ、背中を蹴られるように入院しました。

入院したのは手術日の前日でしたが、麻酔科の小野先生より説明を受け、なるほどと思い、麻酔から覚めた時は、「腹減ったー」とでも言ってやろうなどと、開き直りの心境でもありました。実際には、記憶があるのは術前に病室に居た時までで、手術室へ搬入されるのは覚えてはいません。あとで家族に言われて知りましたが、「これで富士山に登れなくなった」ということをつぶやいたそうです。気がついた時には手術が終わり、病室に寝ていました。

2週間あまりの入院でしたが、想像以上に病院の皆さんは優秀でした。ちなみに2007年夏に3,003メートルの立山に登ることができました。これも皆さんのおかげです。

この頃世の中物騒になってきました。親殺し、子殺し、また官僚の汚職事件等々、悪い事はしてはいけません。神様仏様、天は必ず私たちを黙ってじっと見ています。

老子曰く、「天網恢恢、疎にして漏らさず」と。

皆さん、今年はこれで行きましょう。



内科の常識？非常識！

内科部長 野津原 勝

皆さんは、身近な病気のことを、あまり良く知らなかったり、ひょっとしたら誤解しているかもしれませんよ。今回は、身の回りのありふれた病気について、少し考えてみましょう。

①高血圧と自覚症状

(ある中年男性の独り言) 健診で血圧が高いといわれたけど、どうもないし症状が出たら医者に行こうかな。

→症状がないからといって高血圧を放置しておく、あとで痛い目にありますよ。

頭痛や肩こり、のぼせなどの症状と、高血圧の重症度は関係ありません！高血圧を治療する目的は、自覚症状の改善ではありません。自覚症状が強いから治療するとか、症状がなくなったから治療をやめるなどということはしません。動脈硬化の進行を抑え、合併症を防ぐのがねらいです。普段の血圧をできるだけ正常近くに保ち続けるのが大事です。

②高血圧と降圧薬

(医者に降圧薬を飲むよう勧められた人のつぶやき) 薬は飲み始めたら、一生やめられないっていうしな。副作用も心配だから、血圧が高いときだけ飲もうかな。

→降圧薬を飲んででも高血圧は治りません。やめれば血圧は上がります。降圧薬を飲まないで血圧が下がらない体になったから飲むのです。薬は体にとって異物なので副作用の危険性はありますが、開始後数か月以内に何も異常がでなければほぼ大丈夫です。

③風邪の特効薬

(サラリーマンが外来で) 明日から出張で休めないから、風邪が一発で治る注射をして欲しい。

→風邪を治す薬はありません！治すのは自分です。薬は咳や熱などのつらい症状を和らげ、体が自然に治るのを助けます。安静、保温、栄養が大切です。

④糖尿病に良い食べ物

(酒好きの糖尿病の患者さんから医者への質問) 先生、何を食べたら悪い？焼酎を飲んだら食事を減らせばいいっちゃろ？

→糖尿病だからといって、食べてはいけない物があるわけではありません。量と栄養のバランスが大事です。アルコールは高カロリーですが栄養素は含まないので、たくさん摂るとバランスがとれません。

⑤癌と遺伝

(肺炎で入院した早とちりの患者さんが) 先生、俺は肺癌だろ？ホントのことを言ってくれ。

親父もおじさんも肺癌で死んだんだ。俺もきっとそうなる。

→ほとんどの癌は遺伝しません。ただし親と同じような悪い生活習慣（タバコ、塩分のとりすぎ、大酒、大食、運動不足など）を受け継ぐと、子供も癌になりやすくなることは考えられます。

⑥タバコと肺癌

(禁煙を勧められていた患者さんが) 先生が禁煙、禁煙ってるさから、タバコを減らしたよ。

二箱を一箱にして、低タールのに替えたからもう大丈夫！

→タール量と発癌物質の量は無関係です。軽いタバコを吸うと、ニコチンをたくさん取ろうとして深く吸い込むようになるので意味がありません。思い切って禁煙しましょう。

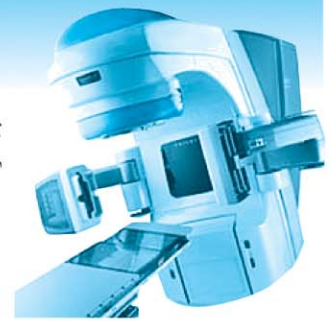
⑦ダイエットの落とし穴

(涙ぐましい努力で減量に成功した若い女性が) 今評判の●●●ダイエットで、みてこの身体！●●●だけ食べてひと月で5キロやせたわよ！

→無茶なダイエットは骨粗しょう症のもとです。骨量（骨密度）は思春期頃まで急激に増加し、20代半ばまで増加し続けます。そして30代後半まで最大の骨量を維持します。骨形成に大切な20代で無理なダイエットをしたため、カルシウムやビタミン、タンパク質の摂取が足りずに、20代でも骨がもろくスカスカの状態（＝骨粗しょう症）となってしまう人が増えています。

当院に導入される放射線治療装置

当院に導入される放射線治療装置トリロジーは（4月治療開始予定）、標準的な外照射のほか高精度の定位放射線治療、IMRT（強度変調放射線治療）、IGRT（画像誘導放射線治療）などの最新の放射線治療ができます。



放射線治療装置 Trilogy（トリロジー） バリアン社製

X線 エネルギー：6MV 10MV 電子線 エネルギー：4～20MeV
マイクロマルチリーフコリメーターm3

マイクロマルチリーフコリメーターm3

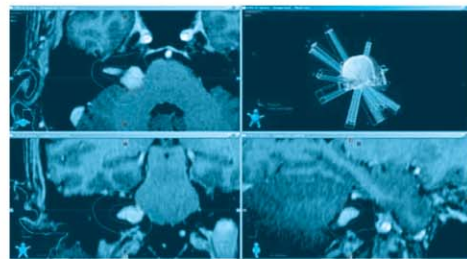
m3（エムスリー）は、3mmという世界でも最薄のリーフを搭載した高精度マイクロマルチリーフコリメーターです。定位放射線はもとより、強度変調放射線治療（IMRT）においても正確な線量照射ができます。3mmのリーフサイズはAAPM（北米医学物理士学会）からSRS（定位放射線治療）およびIMRTのために不可欠な条件として提示されています。治療部位近傍の重要な組織へ線量を軽減することにより、より安全な照射ができます。

●SRS（定位放射線治療）とは…

腫瘍周囲の正常組織には放射線をあてないようにしながら、誤差1mm以下の高い精度で高線量の放射線を腫瘍だけに照射する治療のことです。

手術で摘出した場合と同様の効果があります。

放射線を使った治療ですので、手術困難な部位にできた病変や高齢の方の治療も可能です。



●IMRT（強度変調放射線治療）とは…

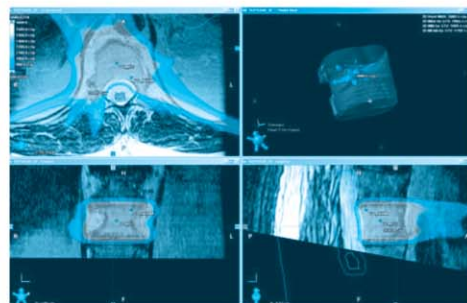
腫瘍の形状にあわせた照射を可能とする機能です。

腫瘍の形状は球形ではなく、いびつな形状で、しかも厚さも不均一です。しかし、従来の方法で照射する場合には立方体または直方体、あるいは楕円の照射形状となり、余分な範囲に照射されてしまいます。この方法による放射線の照射口には、MLC（マルチリーフコリメーター）が取り付けられています。

放射線を遮断する効果がある鉛でできたMLC

をコンピューター制御で自在に動かすことにより、照射範囲や強さが調節されるしくみです。

照射の範囲や強さは、がんの形や大きさ、放射線を当ててはいけない周囲の臓器との位置関係から、CT、MRIなどの画像診断をもとにコンピューターが算出します。



●IGRT（画像誘導放射線治療）とは…

On-Bord Imager装置では、X線撮影画像、透視画像やコーンビームCT画像を作成します。それらは腫瘍と周辺正常組織との間のコントラストの優れた3D画像を作成できる静止画像や、腫瘍の動きのX線動画を提供します。それぞれの患者の疾患の特徴に合わせて、最適な画像撮影技術を選択できます。

みなさんこんにちは！

新しく来られた先生の紹介をいたします。

立山 真吾 (たてやま しんご) 39才

【担当科】ペインクリニック・麻酔科

【出身大学】宮崎医科大学

【趣味・特技】映画鑑賞・音楽

【自己PR】ペインクリニックを通して、痛みのある患者さんの痛みを出来るだけ弱くできるように頑張ります！！



記念病院 理念 「人間愛」

記念病院 基本方針

1. 患者様の人権と意思を尊重し、患者様の立場に立った医療を提供します。
2. 地域の中核的病院として、専門的且つ高度な医療を実践します。
3. チーム医療を推進し、より良い医療を目指します。
4. 豊かな人間性を兼ね備えた医療人を育成します。
5. 職員が意欲を持って働ける職場環境を作ります。

あ と が き

毎年この時期になると、家族と過ごしたお正月のことを思い出します。両親は共働きで年末年始の休みもなく、家族揃っての初詣もほとんどしたことはありませんが、親戚で集まってお正月の準備をしたり、新年会をしたりと賑やかだったので淋しい思いをしたことはありませんでした。

年末には母の実家で、親戚が集まって餅つきをしました。祖父を中心に男性陣がかまどでもち米を蒸し、お餅がつきあがると女性陣が丸めます。祖母が、軽快な手さばぎで熱いお餅を同じ大きさに取り分けて、それを丸めていくのですが、熱いうちに手早く丸めなければきれいな形にならないので、手を赤くしながら丸めたのを覚えていました。

子供の頃は、つまみ食いをしながら大人に混じってお餅を丸め、飽きたら遊びまわっていました。年を重ねるごとに少しずつ上手にお餅を丸めることができるようになり、少し大人になったような気がしていました。

餅つきの最大の楽しみは、かまどから出した炭で、祖父が七輪を使って焼いてくれるお餅を食べることです。お醤油をつけたり、海苔をまいたり、色々な味を楽しみながら2〜3個のお餅をペロリと食べていました。

大人になると、餅つきに参加できる機会はすっかり減ってしまいましたが、それでもお正月に親戚で集まって、毎年一緒に過ごす習慣は今も変わっていません。毎年家族や親類と一緒に新年を迎えられることがとても幸せなことだと実感しています。

